

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381054

研究課題名(和文) 諸外国における幼稚園導入過程から見た現代日本の保育 - 新しい保育史観の試み -

研究課題名(英文) Contemporary Japanese child-education through the process of introducing kindergartens in foreign countries:A new historical view

研究代表者

オムリ 慶子 (OMRI, Keiko)

関西学院大学・教育学部・教授

研究者番号：20193823

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ドイツ、イタリア、アメリカ、日本の初期幼稚園を調査することによって、「教員養成・養成課程」「保育者の役割」「保育内容」「教材」の4つの視点から、現在日本の保育への影響を明らかにした。その結果、(1)「教員養成・養成課程」では日本のミッション系師範学校へのカリキュラムの影響が、(2)「保育者の役割」では幼稚園教員としての資格化を通して専門職化と質の向上、および保育者に求められた母性が、(3)「保育内容」ではフレーベル恩物の「生活の形式」がごっこ遊びに及ぼした影響が、(4)「教材」では日本独自の折り紙の発展が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study investigates early kindergartens in Germany, Italy, The United States of America, and Japan to reveal their influence on current Japanese child-education by examining the following four aspects: 1) teacher training course and curriculum, 2) role of the kindergarten teacher, 3) curriculum content, and 4) materials.

Research results indicated the following: teacher training course and curriculum influenced Japanese mission teacher training schools. The role of the kindergarten teacher revealed professionalization and quality improvement in kindergarten teacher qualifications and their necessary maternal role. Curriculum content revealed the influence of the "form of life" of Froebelian Gifts on pretend play. Finally, materials revealed the original development of Japanese origami.

研究分野：幼児教育学

キーワード：ドイツフレーベル幼稚園 イタリア幼稚園導入史 アメリカ幼稚園導入史 日本幼稚園導入史

1. 研究開始当初の背景

昨今の日本の保育者養成では、現場に直結する実践に重きが置かれる傾向にあり、その根本となるべき保育の思想や歴史の教授が希薄になりつつある。また逆に、保育思想や保育史がそれのみで完結してしまい、現場の実践との橋渡しができていない現状もある。これらのことを鑑み、本研究では、実践と保育思想・保育史との融合を目指したいと考えた。

2. 研究の目的

以上のような背景から、現在日本の近代的幼児教育が幼稚園導入から始まったことを前提とし、日本と諸外国の幼稚園導入過程を比較考察することによって、日本独自の変容の道筋を現在の保育実践に引きつけて明らかにし、保育者が自らの実践を保育史の中で確認できるような、実践との融合を目指した具体的で新しい保育史観を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

日本の幼稚園受容過程を明らかにするために、イタリア、アメリカ、ドイツを調査対象とした。これらの国を対象とした理由は、日本最初の東京女子師範学校附属幼稚園保母豊田英雄がヨーロッパ渡航中、イタリアの幼稚園や保育者養成校等の女子教育を視察したこと¹⁾、明治20年以降日本の幼稚園発展が、アメリカ人キリスト教宣教師によって、日本各地に建てられた幼稚園や保育者養成校に大きく影響を受けていること²⁾、そして両国の幼稚園運動の先鞭をつけたのは、日本における松野クララと同様、ドイツの養成校出身のドイツ人教師であったことからである。

研究方法は、先行研究を基礎に現地の図書館や博物館などで蒐集した古文書の分析、そして4カ国の養成校や博物館に残されている過去からの養成校学生や子どもたちの折り紙や紙等の作品、デッサン、ノート等を検証する。海外で調査する時は、各国の幼稚園導入史に詳しい現地の研究者の協力を得て、文献検索、博物館調査をする。そして、日本の幼稚園導入過程を、ドイツ、アメリカ、イタリアの導入過程と比較検討することによって、日本の幼稚園導入の特徴的な変容を導き出し、「教員養成・養成課程」「保育者の役割」「保育内容」「教材」の観点から現在の保育現場の実践に至る道筋を明らかにする。

<引用文献>

- 1) 清水陽子・高橋清賀子「イタリアでの教育・保育調査と女子教育への道」前村晃他『豊田英雄と草創期の幼稚園教育』建帛社、2010.
- 2) 文部省『幼稚園教育百年史』1979, p.86, p.169. 文部省『幼稚園教育九十年史』1969, p.98-99, p.106.

4. 研究成果

本研究は研究代表者と3人の研究分担者が、前述した4つの観点を主としてそれぞれ課題に取り組んだ。「教員養成・養成課程」が甲斐、「保育者の役割」がオムリ、「保育内容」が山田、「教材」が大森である。以下、それぞれの観点から研究成果を報告する。

(1)「教員養成・養成課程」

今回の調査では、ドイツにおける幼稚園教師養成校の教育課程・教師養成に関する具体的な資料は、ドイツのフリードリッヒ・フレーベル博物館所蔵のドレスデン幼稚園教諭養成所(フレーベル財団)の時間割表(1879年)以外は見出すことはできなかった。さらにアメリカにおける調査研究は、フレーベル主義幼稚園が活発に導入展開され、また、日本の幼稚園導入にも影響を及ぼしたことで重要と考えていたが、日程調整および費用の問題によって、ウィスコンシン州ウォータータウンの歴史協会が運営するドイツ語幼稚園、オクタゴンハウス、そして協会所蔵の写真資料および協会発行の書籍の収集分析にとどまった。

しかしこれらの資料を分析することによって興味深いことが見えてきた。それは、

ドイツのフレーベル幼稚園が、イギリスおよびアメリカへ導入展開された過程において、1848年革命政治亡命者達“Forty-Eighters”というグローバルの動向、リベラリズムの波及を指摘できること。

イギリスおよびアメリカは、フレーベル主義幼稚園教育を受けたドイツ人達によって推進され、それを可能とする社会・文化があったこと。

イギリスおよびアメリカにおけるフレーベル主義幼稚園導入に際しては、日本での導入と異なり、キリスト教伝道・布教を主としたものではなかったことである。

明治初期における幼稚園の導入と展開は、日本政府のみならず海外から派遣された宣教師達、特に、新しい時代背景と共に誕生した自立した意志を持つ独身の女性達によって遂行された史実がある。米国やカナダの教会各派の女性によって組織化された伝道会社・伝道局が派遣する婦人宣教師は、社会的女性の自立、職の確保を意味していた。派遣宣教師には給与や手当が支給され、専門職としての社会的地位が保障されていた。婦人宣教師達の活動と共に海外伝道におけるフレーベル教育・幼稚園・幼児教育がアジア諸国において有効であることが*The Kindergarten Review*にも報告され、専門的に養成された人材派遣が急務とされていた。したがって明治10年代後半以降、日本に渡ってきたアメリカ人やカナダ人宣教師たちは、アジア諸国にキリスト教を伝道するというのが第1のミッションであり、そのための幼稚園教師の養成であったことも一部にはあったことが明らかになった。

残された課題として、ドイツのドレスデン

幼稚園教師養成所のカリキュラムは、アメリカ人やカナダ人らによって開設された日本の初期養成校のカリキュラムと類似性は見られたが、アメリカの幼稚園教育課程および幼稚園教師養成に関しては、ユニテリアン派で超越主義のピーボディの教育思想研究を含め、アメリカの教育界に見いだせる要素を捉えることと、日本に派遣されたカナダやアメリカの婦人宣教師のバックにある当時の社会背景・女性史など視野に入れた研究、さらに、彼らが学んだ幼稚園教師養成校教育課程の研究によって、我が国の「キリスト教保育」を再考できるのではないかと考える。

(2)「保育者の役割」

「保育者の役割」を、保育者としての資質と、保育を行っていくうえでの必要な専門性という2つの視点から明らかにした。

幼稚園導入期の「保育者の資質」を語る際的前提としてあげなければならないことは、幼稚園教師が女性であるということである。岩崎の研究(1995年)によると、フレーベルは幼稚園教師養成の対象を男性から女性にシフトしていき、1847年の保育者養成所案では養成対象者を女性に限定した。それには、フレーベルが幼児の教育を女性の特性と結びつけたこと、そして幼稚園教師という職業を女性解放の一環としたことがあげられているが、幼稚園教師の志願者の多くは、ドイツでもイタリアでも、中間層の家庭出身ではあるが働かなければならない少女や娘たち、また結婚に失敗した女性たちであったようである。このような女性を取り巻く幼稚園教師という職業について、フレーベルの教え子である女性教師たちは、幼稚園教師という職業を「崇高」「神聖」なものであるという言葉で綴っていた。イタリアでは、時代はもう少し後にはなるが、幼稚園の様子を紹介した1871年『イタリア教授同盟』の活動報告書に、幼稚園教師を「女性としての崇高なミッション」と表現しており、幼稚園教師を崇高で神聖な職業であるとするこの理念は、この時代の働かざるを得ない女性たちの精神的支えになっていたのではないかと考える。1878年以降フレーベルの遠縁にあたるブライマンが、さらに幼稚園教師の母性的役割を強調し、「精神的母性」を持つ専門職としての幼稚園教師の養成を目指していた。1895年からイタリアで幼稚園改革を行ったアガツィ姉妹も、教師は幼稚園での母親として、母性的な教師をフレーベルの教師像に求めていった。

一方アメリカでは、新大陸に入植した初期の人々は比較的裕福な家庭が多く、初期の幼稚園は富裕層を対象にしたものであったことや、1880年代後半以降女性のキリスト教宣教師が日本をはじめとした外国への幼稚園普及を担っていたこと、そして、日本においては明治期の幼稚園が官立・ミッション系問わず、そこで働く幼稚園保姆の出身階級は旧藩士の娘であったことから、アメリカと日本の幼稚園教師は、ドイツやイタリアとは違

った役割を持っていたことが考えられるが、これについてはさらなる調査が必要である。

そして「保育者の専門性」を語るには、まずフレーベルが幼稚園教師を資格職としたことに始まるといってもよいだろう。フレーベルが資格職としたことにより、幼稚園教師は専門職となり、その結果、幼児教育の質が高まったとイタリアの幼児教育史でも評価されている(Macchietti, 1986)。教え子たちがフレーベルに書き送った手紙によると、そこから見えてくる教師の仕事内容は、恩物や手技等の遊び、唱歌、手遊び、物語の読み聞かせ、落ち着きのない子を落ち着かせて作業ができるようにするなど、恩物主義に陥る以前の初期幼稚園の様子は、扱う教材や内容は違うが、行われている保育の内容や、教師が子どもに遊びを通して身の回りのいろいろなことを子どもに教えたり気付かせたりする様子は、現在とあまり変わりがないように見える。ただ当時は、保護者支援や子育て支援という役割はなかったことと、ドイツの初期の幼稚園教師は、恩物を販売するという仕事も引き受けていた(岩崎、1995)。

フレーベルが1847年に考案した養成カリキュラム案では、「子どもの発達論、保護と教育の原理、子どもに対する教育的な話し方、唱歌、四肢と感覚の陶冶方法論、恩物の理論と利用法、運動遊びを中心とする体育、植物学と庭での栽培、手技、子どもたちの遊びと作業への参加を中心とする実習等」であり、岩崎はこれを、道徳や宗教性を強調した幼児学校教員養成内容と比べているが、フレーベルが考案した養成カリキュラムがいかに専門性の高いものであるかがわかるだろう。その後、大なり小なり時代の変化や養成校の方針によって加えられた講義はあるが、19世紀末までドイツの養成カリキュラムの基礎となっていた。

(3)「保育内容」

本研究では、フレーベルの保育がイタリアとアメリカに導入された内容を「恩物」を中心に、自発活動との関係で考察を試みた。

日本で、子どもが形式的に恩物を使っていた時期から、自由に積み木として使うようになるまでにかなり時間を費やしたが、その背景として、バド・ブランケンブルグのフレーベル・ハウス幼稚園(現在は労働者福祉協会AWO運営)園長、そしてフリードリッヒ・フレーベル博物館館長ロックシュタイン氏へのインタビュー調査から推察されることは、恩物の形式は保育者養成のなかで保育者に繰り返し説明されるものであり、本来子どもたちに説明し実施されるものではなかったのではないかとということである。

イタリアでは、アガツィ姉妹らがフレーベルの教育法をそのままではなく、日常生活の練習を取り入れながら、イタリアの文化事情に合わせて発展させている。パクスアーリ・アガツィ協会に保存されている教具は、恩物のようなものから、生活に使われるコッ

プヤボタンなどが観察された。

アメリカでは、シュルツ女史が展開したフレーベル直伝の教育は、結局根付くことはなかったようである。アメリカ大陸という広大な土地を多くの移民で開拓していく過程で発展させたのは、経済の発展と科学の進歩だった。教育の見直しはその流れの中、心理学の発展とともに行われてきたのである。フレーベルの教育は検証され、教具としての恩物は姿を消していったが、遊びや生活の中で「認識の形式」、「美の形式」、「生活の形式」の考え方は受け継がれていったようである。ヒルが「コンダクトカリキュラム」を著し、コロンビア大学で学んだ新教育は、キリスト教の宣教とともに日本に上陸することになった。関西学院大学（旧聖和大学）のキリスト教教育・保育研究センターにおいて収集した A.R.Peavy 氏の指導書「Corses of Study for Kindergarten and FirstGrade」には、言語、健康面など 11 項目からの活動例が示されており、演劇的な要素についてはお店遊びの様子が詳しく書かれている。この様子はまさにごっこ遊びであり、子どもが日常生活（地域社会を含む）体験を再現していることが記録されている。この再現については、フレーベルが「生活の形式」と子どもが生活の出来事や事物を見立てて再現することについての重要性を指摘していたことに通じるものがある。しかし、聖和幼稚園 100 年史にも書かれているとおり、当時の日本では、なかなか理解することは難しかったようである。これは明治以降の日本事情が大きく影響していることが考えられる。

以上のことから、各国の幼稚園導入期には、その時代と各国の事情が関係していることが明らかになったが、日本においても、明治以降の歴史と世界の流れの中の日本の位置づけから、幼児教育の方法をとらえる必要があると考える。

(4)「教材」

本研究では、保育教材のうち、特に“折り紙”に視点を当てて調査を行った。フレーベル（1782 年～1852 年）が独創的に考案した幼児のための教材リスト（いわゆる 20 恩物）が、出身国ドイツにおいてどのように受け入れられたか、また諸外国へはどのように伝播され、浸透・定着、もしくは改変・消滅されていったのかについて関心を抱いてきた。すばらしい教育的価値を持つものであっても、それぞれの国の文化・時代的背景を抜きに定着しないであろうとの思いがあるからである。フレーベルの教材の中でもわが国の伝統文化と深い関係を有する“折り紙”（Material for Paper Folding, 摺紙法）に着目して、ドイツ、イタリア、アメリカでの導入実態とその後の様相を明らかにしたいと考えた。教材が示す普遍的な教育的価値とそれぞれの国の伝統的文化の関係の考察から、他国の教育制度や内容を導入する際の留意点を導くことが可能ではと考えたためである。

わが国において、一般に日本独自の文化と考えられていた“折り紙”は、世界各地、特にヨーロッパにおいて幾つかの地点（人物）から発祥していたことが現在定説になりつつある。その共通項は、正方形の紙の用紙を折り畳んで様々な形を作り出す遊び（作業）ということである（用紙は正方形に限らず、円形・長方形もあれば、布性もある）。折り畳んで出来上がる形は具象的なものと、幾何学・数理法則に則るもの、美的・デザイン的なもの、また平面体と立体、鋏で切り込み線が入ったものとそうでないものなど様々に区別される。フレーベルの折り紙の特徴は、10センチ四方の白い無地の用紙（酸性紙）から作る、数理的法則に基づく幾何学模様の平面体である。ドイツの調査では、これらの平面的な折り紙のほかに、立体（花、船）のもの、具象作品（ズボン、鳥、屋根船、奴さんなど）があった。また、わが国の伝来の作品とばかり考えられていた奴さんやズボン（袴）、屋根船が展示してあった。無論これまでも、このような事実は、資料として紹介されてはいたが、実物を実際に目にして認めざるを得なかった。しかしながら、幾何学模様の折り紙とこれら具象作品の間の質的差異に関しては何か意味するものがあるのではないかという疑問が残った。一例として、石川県加賀市にある折り紙博物館の高木智収蔵品の紹介にある、江戸時代の欄間図式（1734 年）に描かれた奴さんや屋根船がフレーベル博物館の作品が酷似していることが挙げられる。年代的根拠から日本から移出されたものとも考えられる。折り紙のルーツと交流の歴史はまだまだ緒についたばかりで、これからの解明が待たれるところである。

わが国最初の保姆である豊田扶雄、近藤浜から一期生として養成教育を受けた氏原銀の手記によれば、

色紙ノ如キモ外国ヨリ取り寄セタルハ皆洋紙ナレハ之ヲ日本紙ノ西ノ内美濃紙ニ染メサセタルニ之モ思フ様ニ染メ上ラス度々之ヲ改メサセテ適当ノモノヲ得タリ又恩物図形モ畳紙ノ如キハ外国ノモノハ美麗式ニ属スル整体形ノミナレトモ之ヲ我国古来ヨリ有ル鶴三宝菖蒲香箱等ノ如キ立体ヲ加ヘテ出版セリ（竹村、1960）

とある。この発言は信憑性が高いといえよう。すなわち、明治の初期、わが国ではそれまで存在した伝来の折り紙作品と、異質の折り紙作品を対等に扱い、臆することなく保育教材に取り入れたという事実がある。これに対して、イタリアではほとんど折り紙は見られず、唯一の例外はレッジョ・エミリア市のレミダで、具象的折り紙作品も展示されていた。また、アメリカ最初のシュルツ夫人の幼稚園では、折り紙の具象作品は見られず、色紙を線状に切り、輪つなぎして飾ってあったのが印象的であった。色取り取りの立体・空間装飾品として、わが国の幼稚園でもよく見るものである。それは、ウォータータウンの現在

の図書館でも書棚と書棚を渡すように飾られていた。すなわち百数十年命脈を保ち、アメリカ（ウイスコンシン州ウオータータウン）の文化として定着しているように思えた。

このような事実を確認すると、その国の文化様式と馴染まないものについては、継承していくことが難しく、もしそれが新たな遊戯や玩具として継承されていくとしたら、余程の教育的価値を見出したということ考えられるであろう。

以上の4つの観点から研究成果を整理したが、研究を進めるうちに、当初考えていた研究に必要な資料が不足していたり、また新たな知見に触れて当初通りの研究が進まなくなったりなど、未達成の課題も残されたが、課題達成のための示唆や推論も含めると各課題は部分的にでも達成できたのではないかと考える。今後は、日本への受容と現在の実践への道筋を、ポスター等で見える化した形で整理したい。

<主要参考・引用文献>

- ・岩崎次男「フレーベルの幼稚園成立と幼稚園教育者の教育」『幼児保育制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、1995年。
- ・大森隆子「折り紙のルーツを訪ねるドイツの旅(2)」『椋山女学園大学教育学部紀要』Vol. 8、2015年。
- ・オムリ慶子『イタリア幼児教育メソッドの歴史の変遷に関する研究 - 言語教育を中心に -』風間書房、2007。
- ・小檜山ルイ『アメリカ婦人宣教師 来日の背景とその影響』東京大学出版会 1992年。
- ・ケーニツヒ編/岩崎次男訳・監修『フレーベル賛歌 - 子どもと人間の友あての女性たちの書簡 -』フレーベル館、1991。
- ・酒井玲子、「19世紀後半のベルリンにおけるフレーベル運動と保育者養成」『幼児保育制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、1995年。
- ・竹村一『幼稚園教育と健康教育』ひかりのくに昭和出版、1960年。
- ・塚益徳『人物を中心とした女子教育史』帝国地方行政学会 1965年。
- ・Catarsi e Genovesi, *L' Infanzia a Scuola: L' educazione infantile in Italia dalle sale di custodia alla materna statale*, Juvenilia, Bergamo, 1985.
- ・Catarsi, E., *L' Educazione del Popolo: Momenti e figure dell' istruzione popolare nell' Italia liberale*, Juvenilia, Bergamo, 1985.
- ・Macchietti, S.S., *La Scuola infantile tra politica e pedagogia dall' età apertiana ad oggi*, La Scuola, Brescia, 1986.
- ・*Relazione intorno al secondo anno di vita del circolo Verona della Lega Italiana d' Insegnamento letta dal comitato all' assemblea generale dei soci del giorno 28. Maggio 1871*, Stabilimento tipografico civelli, Verona, 1871.

・Ugolini, G., *Mompiano: Storia di un' idea e di un' esperienza educativa*, La Scuola, Brescia, 1942.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

オムリ慶子・山田りよ子・甲斐仁子・大森隆子「イタリアにおける幼稚園導入 - イタリア幼児教育史の観点から -」『椋山女学園大学教育学部紀要』、査読有、第10号、2017年3月、p.41-p.61.

大森隆子・甲斐仁子・オムリ慶子・山田りよ子「アメリカ最初の幼稚園 ウイスコンシン州ウオータータウンのフィールドワーク」『椋山女学園大学教育学部紀要』、査読無、第10号 2017年3月、p.25-p.40.

オムリ慶子、「1870年代前半ヴェローナの幼稚園 - 『イタリア教授同盟』会報の分析を通して -」、関西学院大学『教育学論究』、査読無、第8号、2016年12月、p.51-p.63.

オムリ慶子、「イタリアにおける幼稚園導入期の一様相 コロミアッティの『教育システム』を中心に -」、日本ペスタロッター・フレーベル学会紀要『人間教育の探求』、査読有、第28号、2016年7月、p.23-p.47.

大森隆子「折り紙のルーツを訪ねるドイツの旅(2)」、『椋山女学園大学教育学部紀要』、査読無、Vol. 8、2015年3月、p.231-238.

https://lib.sugiyama-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1900&item_no=1&page_id=13&block_id=21

甲斐仁子・大森隆子「バート・ブランケンブルクとフレーベル教育の源流」『椋山女学園大学教育学部紀要』、査読無、第8号、2015年3月、p.87-p.108.

https://lib.sugiyama-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1971&item_no=1&page_id=13&block_id=21

オムリ慶子、「ドイツにおける初期の幼稚園保育者養成」、関西学院大学『教育学論究』、査読無、第6号、2014年12月、p.51-p.60.

https://kwansei.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=22352&item_no=1&page_id=30&block_id=27

〔学会発表〕(計8件)

企画：大森隆子、話題提供者：山田りよ子・オムリ慶子・甲斐仁子、「幼児教育の歴史から学ぶ現代保育を考える視点ーキ

ンダーガーデンの導入過程を通して」
日本保育学会第 70 回大会、自主シンポジ
ウム、於：川崎医療福祉大学（岡山県・
岡山市）2017 年 5 月 21 日。

オムリ慶子、19 世紀後半におけるヴェロ
ーナの幼稚園 - 『イタリア教授同盟ヴェ
ローナ支部』の機関誌分析を通して -、
日本ペスタロッチー・フレーベル学会第
34 回大会、於：広島大学（広島県・広島
市）2016 年 9 月 11 日。

オムリ慶子企画、ヴェネツィアの幼稚園、
日本教育学会第 75 回大会、ラウンドテー
ブル「イタリア教育学研究 - dopo
scuola と giardino d' infanzia をめぐ
って - 」於：北海道大学（北海道・札幌
市）2016 年 8 月 23 日。

山田りよ子、外国の保育導入について
の一考察～A.R.Peavy 氏の指導資料分析～、
日本保育学会第 69 回大会、於：東京学芸
大学・白梅学園大学・白梅学園短期大学
（東京都・小金井市）2016 年 5 月 7 日。
オムリ慶子、イタリアにおける幼稚園導
入期の一様相 - コロミアッティの『教育
システム』を中心に -、日本ペスタロッ
チー・フレーベル学会第 33 回大会、於：
大阪人間科学大学（大阪府・摂津市）2015
年 9 月 6 日。

山田りよ子、フレーベルの遊びについて
の一考察、日本保育学会第 68 回大会、
於：椋山女学園大学（愛知県、名古屋市）
2015 年 5 月 10 日。

甲斐仁子、フレーベル幼稚園の導入過程
と展開に関する一考察、日本保育学会第
68 回大会、於：椋山女学園大学（愛知
県、名古屋市）2015 年 5 月 9 日。

甲斐仁子、我が国における幼稚園 / 幼児
教育の導入と展開 - カナダ婦人宣教師の
活動をとおして -、九州教育学会第 66 回
大会、於：長崎大学（長崎県・長崎市）
2014 年 12 月 5 日。

〔その他〕

報告書「諸外国における幼稚園導入過程から
見た現代日本の保育 - 新しい保育史観の試
み - 」2017 年 3 月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

オムリ 慶子(OMRI,Keiko)
関西学院大学・教育学部・教授
研究者番号：20193823

(2) 研究分担者

大森 隆子(OMORI,Takako)
椋山女学園大学・教育学部・教授
研究者番号：40213871

甲斐 仁子(KAI,Kimiko)
東洋英和女学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：50141833

山田 りよ子(YAMADA,Riyoko)
藤女子大学・人間生活学部・准教授
研究者番号：00299736

(3) 連携研究者

荘司 泰弘(SHOJI,Yasuhiro)
常磐会学園大学・国際こども教育学部・教
授
研究者番号：80154342

(4) 研究協力者

Rockstein,Margitta（ドイツ、バード・ブ
ランケンブルク、フリードリッヒ・フレ
ーベル博物館・館長）

Macchietti,Sira,S.（イタリア、アレツ
ォ宗教科学高等研究所・教授）